

第2回石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業中間評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 平成27年 7月14日(火) 10:00~12:00

2. 場 所 経済産業省別館1階105共用会議室

3. 出席者

(検討会委員) [敬称略・五十音順、※は座長]

内山 洋司 筑波大学大学院 名誉教授

梅田 健司 電気事業連合会 技術開発部長

※堤 敦司 東京大学 特任教授

東嶋 和子 サイエンス・ジャーナリスト

村岡 元司 NTTデータ経営研究所 本部長パートナー

(研究開発実施者)

相曾 健司 大崎クールジェン株式会社 代表取締役副社長

千代延恭太 大崎クールジェン株式会社 取締役総務企画部長

椎屋 光昭 大崎クールジェン株式会社

総務企画部研究企画グループマネージャー

(事務局)

資源エネルギー庁資源・燃料部石炭課

課長 覚道 崇文

課長補佐(企画調整担当) 高木 悠一

課長補佐(技術担当) 榎本 宏

技術係 青山 晴香

(評価推進課)

産業技術環境局技術評価室

課長補佐 村田 博頭

4. 配布資料

資料1 第1回評価検討会議事録(案)

資料2 評価報告書(案)

資料3 「第3章 評価」に対する研究開発実施機関からの意見について(委員限り)

参考資料1 経済産業省技術評価指針

参考資料2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

参考資料3 石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業費補助金事前評価報告書

5. 議事概要

(1) 第1回評価検討会議事録の確認について

事務局から、資料1により、第1回評価検討会議事録の公開について説明がなされた後、当該議事録を公開することが了承された。

(2) 評価報告書(案)について

事務局から、資料2により、前回の議論を踏まえて作成した評価報告書(案)について説明がなされた。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・酸素吹きと空気吹きのメリットとデメリットをまとめ、両者が共に補助金を投入して開発された理由を明示すべきとのコメントがあった。
- ・多くの石炭火力の新設計画があることを考えると、老朽火力のリプレイス需要が変わるのではないかと、委員から質問があった。それに対して事務局から、今後CO₂の規制が強化される方向の中で、現在計画されている効率の良くない小型の石炭火力が全て運転されるとは限らないと回答した。
- ・国内リプレイスに加え、海外展開も本事業の重要な目標であるとのコメントがあった。
- ・実用化に向けて、今後の営業や政策についても検討していくべきとのコメントがあった。
- ・海外展開のための多炭種への対応について、委員から質問があり、研究開発事業者から、過去のIGCC実証事業でも扱った炭種に加え、灰融点の高い炭種も調査対象とすると回答した。
- ・複合システムであるため、各段階での商用化を検討すべきとのコメントがあった。
- ・低炭素化の石油火力導入へのインセンティブに係る制度が創設されると商用化に手をつけやすいただろうとのコメントがあった。

(3) 今後の予定について

事務局にて、今回の指摘を評価報告書(案)に反映させ、各委員が改めて採点をし、最終取りまとめを座長に一任することを確認した。また、第3回評価検討会を書面にて行うこととした。

以上